

(本発表のお問い合わせ先)

美術館美術課

広報資料取扱主任：牧野裕二

電話：087-823-1711

【市長定例記者会見】

高松市美術館特別展

「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.12 わたしのりんかく」

を開催します！



添付資料：プレスリリース詳細

A4 チラシ

リンク：https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/event/exhibitions/exhibition_2024/exhibition_2024/ex_20250201.html

概要

独自性のある優れた作家を紹介する「高松コンテンポラリーアート・アニュアル」。今回は「わたしのりんかく」をテーマに6名(4名+1ユニット)の作家を紹介します。

私をなぞる輪郭は私と他を隔てるものにもなりえますが、それはどこに、どのような形であるのでしょうか。役どころや肩書によって自分を表すことは比較的容易であり、それは明確に引かれた太い輪郭線に感じられるかもしれません。しかし、それらは環境によって変化し、逆転することもしばしばです。身体に目を向けても、どこまでが私と言えるのか、輪郭がいかに曖昧であるかに気づきます。

熱したガラスに息を吹き込んだり、身体を大きく使って練ったりすることでダイナミックな作品を生み出す**横山翔平**(よこやま しょうへい／1985年岡山県生まれ)の作品は、彼の思考や身体を映し出しており、生命を内包しているような印象を与えます。弧線を重ねた絵画を展開する**國久真有**(くにひさ まゆ／1983年大阪府生まれ)が描く線は、彼女の動きの軌跡です。たびたび画面の中央に現れる空白は身体的な限界を示すとともに、人が侵すことのできない領域のようでもあります。日常で生じる感情から作品を立ち上げる**矢野恵利子**(やの えりこ／1987年香川県生まれ)は、作品にあそびの要素を含ませることで、さまざまな感情をユーモラスに可視化します。身体に絵具を垂らすことで、自分が「今ここにいる」感覚を確認するという**新宅加奈子**(しんたく かなこ／1994年大分県生まれ)は、絵具が肌の上で刻々と変化する間、それを感じ取る自身の存在を認めているのでしょう。自然や動物など他者と向き合う**山下麻衣**(やました まい／1976年千葉県生まれ)+**小林直人**(こばやし なおと／1974年千葉県生まれ)が行う行為は一見無意味にも思えますが、繰り返し継続される行為を目撃するうちに、自分と世界との関係がわずかに変化する気配を感じさせます。

刹那にとらえる輪郭は儚いものですが、それゆえの美しさや力強さを見出すこともできるでしょう。

展覧会名：特別展 高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.12 わたしのりんかく

展覧会英名：Takamatsu Contemporary Art Annual vol.12 -the Contour of Me

会 期：2025年2月1日(土)～3月16日(日)

会 場：高松市美術館(香川県高松市紺屋町10-4)

休 館 日：月曜日(ただし、2月24日(月・振休)開館、2月25日(火)休館)

開館時間：9:30～17:00(金・土曜日は19:00閉館／入室は閉館30分前まで)

観 覧 料：一般1,000円(800円)、大学生500円(400円)、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者(または障害者手帳アプリ「ミライロID」提示)は入場無料

主 催：高松市美術館

助 成：一般財団法人自治総合センター、公益財団法人朝日新聞文化財団、**NOMURA 野村財団**

協 力：A Lighthouse called Kanata, Takuro Someya Contemporary Art

プレスリリース お問い合わせ 高松市美術館 Tel 087-823-1711、087-823-1730

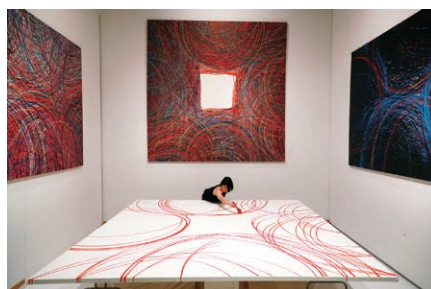
展覧会担当：尾形絵里子 eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp 広報担当：福田千恵 a160159@city.takamatsu.lg.jp

見どころ1 多様な現代アートの新作が見れる！

本展覧会には、**ガラス(横山翔平)**、**絵画(國久真有)**、**陶芸(矢野恵利子)**、**パフォーマンス(新宅加奈子)**、**インスタレーション(山下麻衣+小林直人)**による作品が展示され、各作家が本展覧会のために制作した新作も展示されます。素材の特性を生かした作品、現代アートの豊かな表現をお楽しみください。

見どころ2 20mの作品がエントランスに登場！

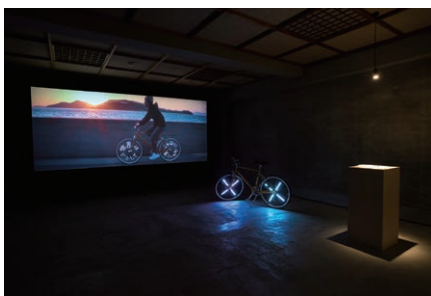
腕を伸ばしてキャンバスの上に弧線を描き重ねる國久真有。本展覧会では全長約20mの作品がエントランスに展示されます。また、会期中にはライブペインティングが行われるほか、参加者がキャンバスに弧線を描き、ひとつの作品を制作する「WIT-WIT DRAWING」も開催します。



國久真有《BPM》2019年
写真提供：川崎市岡本太郎美術館

見どころ3 美術館外につながる作品展開！

山下麻衣+小林直人による《ただ独り歩め》は美術館の外壁に設置されます。細い路地裏を歩きながら、ブッダによる「犀の角のようにただ独り歩め…」と繰り返される言葉と向き合います。また彼女らは、自分たちの部屋を自身の輪郭の一種ととらえ、展示室と自宅の一部を重ねる《Around The Corner》も展示します。



山下麻衣+小林直人《世界はどうしてこんなに美しいんだ》2019年
(瀬戸内国際芸術祭2019での展示風景)
Courtesy of the Artists and Takuro Someya Contemporary Art

作家略歴

ガラスとは思えないパワフルな作品群を展示！

横山翔平 よこやま しょうへい 1985年**岡山県生まれ**。2008年大阪芸術大学工芸学科ガラス工芸コースを卒業し、同大学の非常勤副手となる。2011年金沢卯辰山工芸工房に入所、2014年から富山ガラス造形研究所の助手を、2018年から多摩美術大学工芸学科ガラスプログラムの助手を経て、現在は同大学で非常勤講師を務めている。

近年の個展に2018年「静を孕む」(リバーリトリート雅楽俱、富山)、2019年「横山翔平展—流動—」(丸八製茶場一笑、石川)など、グループ展に2021年「GO FOR KOGEI」(石川、富山、福井)、2023年「吹きガラス—妙なるかたち、技の妙—」(サントリー美術館、東京)など多数。2014年と2020年に石川県能登島ガラス美術館に作品が収蔵され、2022年には**第15回岡山県新進美術家育成「I氏賞」大賞**を受賞するなど受賞歴も多数。

横山が生み出すガラス作品は生命を内包しているような有機的な印象を与える。高温の炉で熱されたガラスを成形できるのはわずかな時間であり、その一瞬のうちに横山は様々な判断を下しながら、柔らかいガラスに息を吹き込んだり、身体を大きく使って練ったりする。横山によると、そのように生み出された作品には彼自身の思考や身体が映し出されているという。

本展覧会では、練りガラスによる作品群を展示予定。さらに、これまでの制作活動から新たな展開を迎えた新作も登場。



横山翔平《Amorphous 21-1》2021年

ライブペインティング、参加型制作、巨大作品など盛りだくさん！

國久真有 くにひさまゆ 1983年大阪府生まれ。2003年ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校ファウンデーション・ディプロマ・イン・アート・アンド・デザインコース修了。2015年神戸芸術工科大学大学院芸術工学研究科芸術工学専攻博士後期課程満期退学。

近年の個展に2022年「國久真有一絵画を生きる」(西脇市岡之山美術館、兵庫)、同年「THE BUTTERFLY DREAM」(SOKYO ATSUMI、東京)、2024年「令和4年度咲くやこの花賞美術部門受賞記念展示『PLATEAU 一儻さと無我を愛する、ぐるぐるー』」(クリエイティブセンター大阪、大阪)、グループ展に2019年「六甲ミーツ・アート芸術散歩2019」(六甲、兵庫)、2020年「fの冒険〜7人のアーティストによる平面表現の魅力〜」(あまらぶアートラボ「A-Lab」、兵庫)など多数、2024年「川崎市市制100周年記念展 芸術は、自由の実験室―夏のアートキャンプ」(川崎市岡本太郎美術館)など多数。2019年に**第22回岡本太郎現代芸術賞特別賞**を受賞、2022年に**令和4年度咲くやこの花賞 美術部門(現代美術)**を受賞している。

國久が制作するのは、さまざまな色の弧線を重ねた絵画作品。それらの線は國久の動きの軌跡であり、色の選択や画面の構成は制作現場の環境、気分、それまでに見てきたものなどに影響を受けるといふ。たびたび画面の中央に表れる空白は、小柄な彼女の腕が届かなかった部分であり、彼女の身体の限界を示すとともに、人が侵すことのできない領域のようにも感じられる。

本展覧会では、**ライブペインティング**や**参加型プログラム**を開催するほか、**全長20m**の《WIT-WIT HOLEWIDE LONG PLATEAU》を含めた大作を展示予定。



國久真有《WIT-WIT BLUE WAVE》
2021年
photo by Shigefumi Kato

展示室で日常の出来事をとらえなおす

矢野恵利子 やの えりこ 1987年**香川県生まれ**。2010年武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科陶磁コース卒業。東京を拠点に活動した後、2018年にはアイルランドへ拠点を移し現地レジデンス等に参加。2020年の帰国後、**香川県を拠点に活動**している。

近年の個展に2018年「HOLIDAY MACHINE」(The Guesthouse Project、アイルランド)、2021年「NEVER UNDER CONTROL」(浜松市鴨江アートセンター、静岡)、2023年「コレクトビジャー・正しい訪問」(広島芸術センター)、グループ展に**2013年「瀬戸内国際芸術祭2013」(香川)**、2022年「せとうちの大気 美術の視点」(香川県立ミュージアム)、2023年「あたらしい場所」(アートギャラリーミヤウチ、広島)などがある。

日常を過ごすなかで生じる感情から立ち上げられる矢野の作品には、イライラやモヤモヤなどネガティブな思いも含まれる。矢野はそれらの感情にあそびの要素を差し込むことでユーモラスに可視化し、解消方法を模索する。表現は陶芸や漫画など多岐に渡り、近年は鑑賞者が参加できるキネティック(可動式)アートの作品も発表している。

本展覧会では、矢野が経験した日常の出来事を漫画風に表現し、「うさこ」が追体験するシリーズ作品の新作を約20点展示するのに加え、矢野が「うさこ」について語る映像による新作インスタレーションを展示予定。



矢野恵利子《Ninoshima》2023年
photo by Mutsumi Tomosada

パフォーマンスを開催！

新宅加奈子 しんたく かなこ 1994年大分県生まれ。2019年京都造形芸術大学(現京都芸術大学)大学院修士課程芸術科芸術専攻総合造形領域修了。

近年の個展に2019年「embodiment Shintaku Kanako solo exhibition」(Kunstarzt, 京都)、同年「indication Shintaku Kanako solo exhibition」(京都写真美術館)など、グループ展に2019年「小さいわたしたち」(+art gallery, 大阪)、2021年「Up_01」(銀座 蔦屋書店 GINZA ATRIUM, 東京)、2024年「東京展 The Echoes of EAST KYOTO」(WHAT CAFE, 東京)など。パフォーマンスに2019年「ヨコハマトリエンナーレ2020 エピソード00」(神奈川)、2020年舞台「raw—精神と肉体の展覧会—」(京都芸術センター co-program 採択企画)など。主な受賞歴に2020年**京都府新鋭選抜展NHK京都放送局賞受賞**、同年**IAG AWARD 2020 奨励賞受賞**などがある。

新宅は自身の身体に絵の具を垂らすパフォーマンスや、写真作品などで知られ、それは自分が「今ここにいる」という感覚を確認する方法だという。絵の具という物質が刻々と変化するのを皮膚の神経を介して感じるとき、彼女はそれを感じ取る自分自身の存在も認めているのだろう。

本展覧会では、皮膚の上で変化する絵の具をとらえた写真作品や、固まった絵の具による平面作品や立体作品を展示するほか、初日にパフォーマンスを開催する。



新宅加奈子《I'm still alive》2019年
photo by Nobutada Omote / Sandwich

作家の自宅と展示室をつなぐ作品を展開！

山下麻衣 やました まい + **小林直人** こばやし なおと 山下麻衣(1976千葉県生まれ)と小林直人(1974年千葉県生まれ)によるユニット。ともに東京藝術大学大学院を修了後、2004年に渡独し、ドイツやアメリカなどでアーティスト・イン・レジデンスに参加。2012年の帰国後、千葉県を拠点に活動している。

近年の個展に2021年「蜃気楼か。」(黒部市美術館、富山)、2023年「もし太陽に名前がなかったら」(千葉県立美術館)などがあり、2024年夏には「他者に対して、また他者と共に」(水戸芸術館、茨城)を開催。主なグループ展に2019年「**瀬戸内国際芸術祭2019**」(香川)、2024年「バンコク・アート・ビエンナーレ2024」(BACC、タイ)など多数。

山下麻衣+小林直人は、映像インスタレーションを中心に作品を制作しており、芝生のうえを何日もかけて走り続け踏まれた部分で「∞」を表す、浜辺に寄せる波を数え続けるなど、自然を相手に行う二人の行為は果てしない。無意味にも思われる行為が継続されるとき、羊を数えて眠りにつくように思考は溶け出し、自分と世界との関係をわずかに変化させるかもしれない。

本展覧会では、大学在籍時に制作した作品から、**瀬戸内国際芸術祭2019 出品作品**、美術館の展示室と作家の自室をつなげる新作や、美術館に隣接する路地裏で展開される新作を展示予定。



山下麻衣+小林直人《発芽を待つ》
2002年

プレスリリース お問い合わせ 高松市美術館 Tel 087-823-1711、087-823-1730

展覧会担当：尾形絵里子 eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp 広報担当：福田千恵 a160159@city.takamatsu.lg.jp

関連イベント

- ・ **アーティスト・トーク** | 無料・申込不要

出品作家が自身の作品や制作について、トークします。

2月1日(土) 13:00 ~ 15:30 (12:45開場) / 出演: 全出品作家 / 会場: 1階講堂 / 定員: 100

- ・ **新宅加奈子: ライブパフォーマンス** | 要観覧券・申込不要

新宅加奈子が作品制作を行います。

2月1日(土) 16:30 ~ 18:30 / 会場: 2階展示室

- ・ **國久真有: ライブペインティング** | 無料・申込不要

國久真有が作品制作を行います。

2月1日(土) ~ 2月11日(火・祝) / 会場: 1階エントランスホール

※イベント出演や休憩のため、制作を行っていない時間帯があります。目安の時間はSNS等でお知らせします。

- ・ **國久真有: 参加型プログラム「WIT-WIT DRAWING」** | 無料・申込不要

来館者が参加できる作品制作です。身体をコンパスのように駆使し弧を描く國久の手法を体験できます。それぞれの弧が重なり、新たな作品を生み出します。(作家は滞在していません。)

会期中いつでも / 会場: 1階エントランスホール / 対象: どなたでも (小さなお子様は保護者の方と一緒にご参加ください) / 持ち物: 汚れてもよい服装でご参加ください。

- ・ **ギャラリートーク** | 要観覧券・申込不要

学芸員と美術館ボランティアciviが、展覧会のみどころや展示作品について解説します。

- ・ **学芸員: 2月2日(日)**

- ・ **ボランティアcivi: 会期中の日曜日(ただし、2月2日を除く)**

各日 14:00 ~ / 会場: 2階展示室

- ・ **ミニコンサート「うたのりんかく」** | 無料・申込不要

2月22日(土) 13:30 ~ 14:00 / 会場: 1階エントランスホール

演奏者: 大山晃(バリトン)、青木香璃(箏)、大山まゆみ(ピアノ) / 定員: 70名程度

- ・ **ふらっとアート「わたしのりんかくをつくろう」** | 無料・申込不要

自分の輪郭をなぞって、作品をつくります。

会期中いつでも / 会場: 中2階こども+(プラス)

- ・ **本でなぞる輪郭線**

1階図書コーナーでは、本展覧会出品作家が影響を受けた本や資料を特集展示します。作家が作品を生み出すに至る過程が垣間見えるかもしれません。 / 会場: 1階美術図書コーナー

同時開催

- ・ 2024年度コレクション4 (2025/1/7 ~ 3/30)
- ・ 特別企画「藤安淳展 かさなるひかり」(2025/1/21 ~ 3/16)
- ・ 第42回日本伝統漆芸展(2025/3/8 ~ 3/30)
- ・ アートアドバイザー講座(2025/3/15 14:00 ~ 15:00)

プレスリリース お問い合わせ 高松市美術館 Tel 087-823-1711、087-823-1730

展覧会担当: 尾形絵里子 eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp 広報担当: 福田千恵 a160159@city.takamatsu.lg.jp

広報用画像

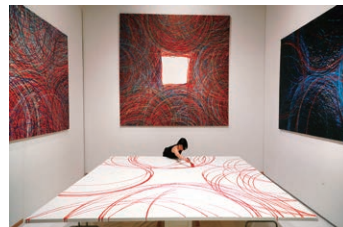
ご希望の方は下記の広報担当にお知らせください。



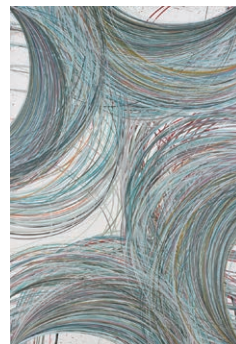
① 横山翔平《Amorphous 21-1》
2021年



② 横山翔平《Amorphous 20-1》
2020年



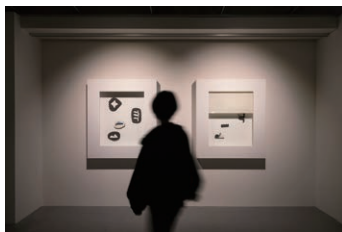
③ 國久真有《BPM》2019年
写真提供：川崎市岡本太郎美術館



④ 國久真有《WIT-WIT BLUE WAVE》
2021年
photo by Shigefumi Kato



⑤ 矢野恵利子《Ninoshima》
2023年
photo by Mutsumi Tomosada



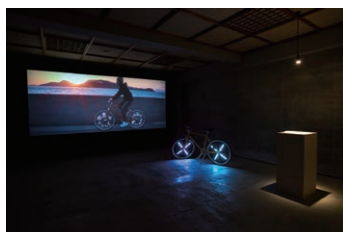
⑥ 矢野恵利子《Classified》2023年
photo by Nozomi Tomoeda
Courtesy of Art Gallery Miyauchi



⑦ 新宅加奈子《I'm still alive》
2019年
photo by
Nobutada Omote / Sandwich



⑧ 新宅加奈子《I'm still alive》
2019年
photo by Yuji IMAMURA
(office Mura photo)



⑨ 山下麻衣+小林直人《世界はどうしてこんなに美しいんだ》
2019年（瀬戸内国際芸術祭2019での展示風景）
Courtesy of the Artists and Takuro Someya Contemporary Art



⑩ 山下麻衣+小林直人《発芽を待つ》
2002年
Courtesy of the Artists and Takuro Someya Contemporary Art



（ポスター画像タテ）



（ポスター画像ヨコ）

プレスリリース お問い合わせ 高松市美術館 Tel 087-823-1711、087-823-1730

展覧会担当：尾形絵里子 eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp 広報担当：福田千恵 a160159@city.takamatsu.lg.jp



(本発表のお問い合わせ先)

交通政策課

広報資料取扱主任: 片原 光隆

電話 087-839-2138

【市長定例記者会見】四国の新幹線シンポジウム「みんなで考える四国の新幹線in高松」の開催について

四国の新幹線の早期実現に向けて、地元機運の醸成を図るため、新幹線の導入意義や役割を幅広い層の市民の皆様にご理解いただくことを目的としたシンポジウムを開催します。

【シンポジウム名】

みんなで考える四国の新幹線in高松

【開催日時】

令和7年2月16日(日) 14時～17時(予定)

【開催場所】

サンポートホール高松 大ホール
(高松市サンポート2-1 高松シンボルタワー・ホール棟)

【開催内容】 ※別添シンポジウムチラシ参照

開催挨拶(高松市長 大西 秀人)

来賓挨拶(岡山市長 大森 雅夫)

基調講演「地域のちから(知恵×覚悟×楽観)で拓く整備新幹線」
(芝浦工業大学工学部 土木工学課程 教授 岩倉成志)

事例紹介「北陸新幹線開業に向けた金沢市の取り組み」
(金沢市都市政策局担当次長 企画調整課長 本島 一二)

パネルディスカッション「私たちの情熱で変わる四国の未来」

【コーディネーター・パネリスト】岩倉 成志(芝浦工業大学工学部 土木工学課程 教授)

【パネリスト】大森 雅夫(岡山市長)

本島 一二(金沢市都市政策局担当次長 企画調整課長)

大西 秀人(高松市長)

また、大ホール周辺のホワイエにて、新幹線に関するイベントを開催いたします。
イベントの内容として、「新幹線スタンプラリー」、「クラフト新幹線」、「鉄道ジオラマ」、「車掌なりきりフォトスポット」などを予定しています。

みんなで考える

四国の新幹線 シンポジウム in 高松

参加無料

事前申込み可能
当日参加もOK

令和7年 **2月16日(日)** 14:00~17:00
(開場13:30~)

サンポートホール高松 大ホール

高松市サンポート2-1 高松シンボルタワー・ホール棟



基調講演

地域のちから(知恵×覚悟×楽観)で拓く整備新幹線

講師

岩倉 成志 (芝浦工業大学工学部 土木工学課程 教授)

東京理科大学大学院理工学研究科土木工学専攻修士課程修了。

東京工業大学工学部土木工学科助手、財団法人運輸経済研究センター研究調査部調査役、芝浦工業大学工学部土木工学科講師、助教授を経て、2004年より現職。

専門分野は、交通計画、交通行動分析。国土交通省交通政策審議会委員、鉄道運輸機構事業評価監視委員会委員等を歴任。



遊びに行こう/
**同時開催
イベント**



新幹線スタンプラリー

先着
**200
名様**

スタンプを集めて、
プレゼントをゲットしよう!

鉄道ジオラマ

鉄道模型を走らせよう。
実際に運転もできちゃうよ!



クラフト新幹線

先着
**200
名様**

ペーパークラフトで
新幹線を組み立ててみよう!

車掌なりきりフォトスポット

車掌さんの制服を着て、
つなぐ人たちと一緒に写真を撮ろう!



主催：高松市 後援：香川縣市町長四国新幹線整備促進期成会

みんなで考える四国の新幹線シンポジウム in 高松 プログラム

13:30 開場

14:00 開演 主催者挨拶(高松市長 大西 秀人)

来賓挨拶(岡山市長 大森 雅夫)

14:15 **第1部** 基調講演「地域のちから(知恵×覚悟×楽観)で拓く整備新幹線」
【講師】岩倉 成志(芝浦工業大学工学部 土木工学課程 教授)

15:15 休憩

15:25 **第2部** 事例紹介「北陸新幹線開業に向けた金沢市の取り組み」
【登壇者】金沢市都市政策局担当次長 企画調整課長 本島 一二

16:05 休憩

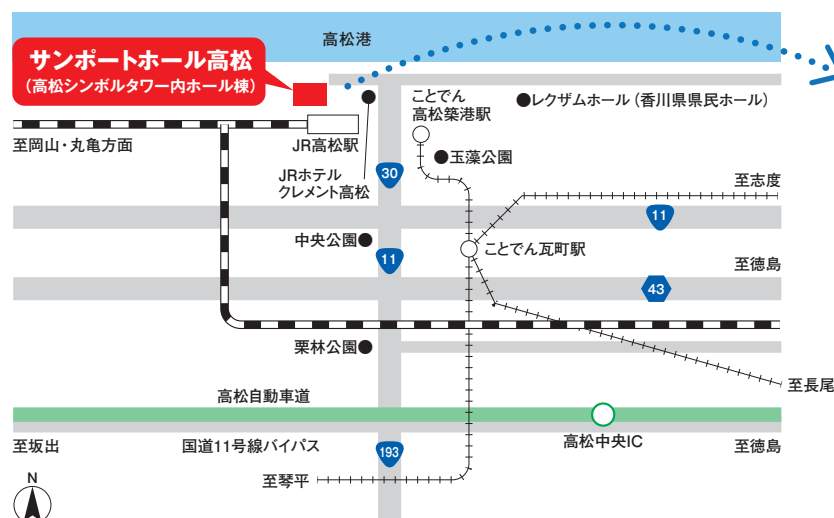
第3部 パネルディスカッション「私たちの情熱で変わる四国の未来」
【コーディネーター・パネリスト】岩倉 成志(芝浦工業大学工学部 土木工学課程 教授)
16:15 【パネリスト】大森 雅夫(岡山市長)
本島 一二(金沢市都市政策局担当次長 企画調整課長)
大西 秀人(高松市長)

17:00 閉演

(敬称略)

会場では四国新幹線PR動画の放映、四国の新幹線パネルを展示しておりますので、講演前や休憩の間にぜひご覧ください。

会場のご案内



交通アクセス

■ JR高松駅から徒歩3分
■ 高松港から徒歩2分

■ ことでん高松築港駅から徒歩5分
■ 高松自動車道高松中央ICから車で約20分

お問い合わせ

■ 高松市交通政策課 TEL 087-839-2138

■ アールエヌシーパック株式会社
(四国の新幹線シンポジウム事務局) E-mail: info@rncpak.co.jp

お申し込みは
こちらから

